

研究テーマ	美術を愛好する心情を育てながら、豊かな情操を養う題材の工夫 ～第3学年 自画像 「自己を描く・今の自分を表現しよう」の実践を通して～
-------	---

八千代町立八千代第一中学校 教諭 中島 えり

## I 研究テーマについて

美術教育の目標「美術を愛好する心情を育てる」ためには、自らの生きる意味や価値観をもち、自分にしかない価値をつくりだし続ける意欲をもたせることが重要であり、「楽しい」「美にあこがれる」「考える」「時の経つのを忘れて夢中になって取り組む」「目標の実現に向かって誠実で忍耐強く自己努力をする」「絶えずよりよい創造を目指す」などの感情や主体的な態度を養うことが大切であると言われている。美術の表現活動は制作の喜びが味わえるものでなくてはならない。自分の制作活動、作品に満足出来ればそれは制作の喜びや自信となっていくと考えられ、美術を愛好する心情を育てることができる。

中学3年生という時期は最も多感な時期であり、困難を乗り越えなくてはならない時期でもある。そして、自分自身を見つめる時期でもある。この時期に、自分と向き合い、自分というものを深く掘り下げられる自画像の制作は取り組ませたい題材の一つである。自分自身を表現しようとすることで、自分自身見つめ直す時間をもつことができる。それは、自分の表したい感じや気持ちを大切に描いたり思いを巡らせながら創造的に学習を進めていくことで制作をしながら豊かな情操を養うことができると考えられる。

美術教育に求められる「美術を愛好する心情」や「豊かな情操」を養うためには、表現の仕方を工夫し生徒が夢中で制作に取り組み、さらに感じたり考えたことを表現しやすい題材や教材を開発することが大切であると考え、このテーマを設定した。

## II 研究の実際

### 1 題材名 自己を描く ～今の自分を表現しよう～

### 2 題材の目標

写真を利用した写実表現と抽象表現を組み合わせ、今の自分を表現することができる。

### 3 題材について

#### (1) 生徒の実態

平成27年4月22日 3年4組 39名調査

1	美術の授業は好きですか？	好き 30人	・ 嫌い 9人
2	絵画は好きですか？	好き 12人	・ 嫌い 27人
3	どうして嫌いですか？	うまくかけない。	19人
		絵の具で失敗する。	7人
		面倒くさい。	1人

ものづくりは好きでも、絵画は嫌いと言う生徒が多い。それは、発達段階から言っても中学

生は写実的な表現にあこがれるからである。形の善し悪しより制作の意図が重視され、抽象画のような作品の存在を知っても、写真と見間違ふような写実的な作品に生徒たちの感嘆の声があがることがしばしばある。自分もそんな作品を制作してみたいという思いがあるが、「自分の思ったように絵を描くことができないから」と答えが絵画嫌いの生徒をつくっている。

(2) 題材観

義務教育を終える中学3年生の時期には、自分自身を見つめることのできる自画像の制作を題材として与えたい。自分自身を描くという行為は、じっくりと自分自身を見つめることができるのである。受験、卒業を控えた中学3年生の心の中は複雑である。そんな心の中を自画像という題材で表現させたい。

(3) 指導観

今回の自画像では、写真を使った自画像制作にしたい。現代の絵画の制作の仕方は、多様であり、写真やコピーやさまざまなものを使っての制作がある。そこで、今回の制作では、人物の構図や背景の表現を重視し、人物表現については写真を媒体に表現していくようにした。写真を活用することにより、人物描写に対しては、絵画の苦手な生徒も苦手意識をもちたずにあこがれの写実表現に自信をもって臨めると思う。後は、人物のポーズや構図、抽象的な背景の表現で個性や自分自身の表現をして欲しい。背景の表現は、2年生で学習した抽象表現を取り入れて、自由な気持ちで自分の内面を表現させたい。

4 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
・自分の気持ちを見つめ、作品にあらわすことに関心をもつ。	・今の自分の気持ちをどのように表現するか発想を広げることができる。	・写実的な表現や抽象的な表現を生かしながら、制作することができる。	・作品と言葉を合わせて鑑賞し、感じ取ったことを話し合うことができる。

5 指導と評価の計画（9時間扱い）

※○印は時数

時間	学 習 内 容 ・ 活 動	評 価 基 準 ・ 【評価方法】
第1次 ①.5	題材について知り、構想を練る。 写真の準備をする。	・題材について理解をし、構想をアイディアスケッチすることができる。 ・構想にあった写真を撮ることができる。 関 想 【観察・学習カード】
第2次 ①.5	点描、抽象的な表現の練習をする。	・表現方法を理解し、描きかたをマスターする。 創 【学習カード】
第3次 ④	自画像を描写する。(点描)	・写真を活用しながら、自分の姿を点描で立体感ができるように描ける。 創 【作品(塩ビ板)】

第4次 ②	背景を描く。	・抽象的な表現で自分の心の中を表現できる。 想 創 【作品（塩ビ板・ケント紙）】
第5次 ①	作品のまとめ。 鑑賞会をする。	・感じ取った自分の考えを発表できる。 鑑 【発表・学習カード】

## 6 指導の実際

### (1) 目標

写真を利用した写実表現と抽象表現を組み合わせ、今の自分を表現することができる。

### (2) 準備・資料

デジタルカメラ・塩ビ板・上質紙・ケント紙・油性ペン・墨・筆・パステル・ポスカ  
色鉛筆・4B・カッター・はさみ・台紙（グレー色画用紙）

### (3) 学習活動 ※（ ）の中は指導上の留意点

第1次 題材について知り、構想を練る。

自己を描く ～今の自分を表現しよう～  
写真を利用した写実表現や抽象表現を組み合わせ、今の自分を表現しよう。

①教科書を使って、どんな思いで「今の自分を表現する自画像制作」を行っていくかを考える。

（教科書の参考作品やアンジェラアキの詩を使ったりして、見たままの姿だけでなく心の中を表現して、今の自分を表現することを伝える。）

②制作の仕方について知る。

（現在の美術のさまざまな表現について説明をし、今回は写真を使って人物（自分の姿）を表現するので絵画が苦手な生徒も描きやすいこと、ペンで表現をすることで絵の具で失敗することがないことを説明し、ポーズや構図、背景の表し方を工夫し自分を表現することを伝える。）

③制作の手順について、昨年度の作品を見ながら説明を聞く。

・塩ビ板に  
油性ペンを使い  
モノクロ点描で  
人物を描く。



・背景を  
抽象的に  
表現する。



・背景と塩ビ板を  
重ね合わせ  
作品を完成させる。

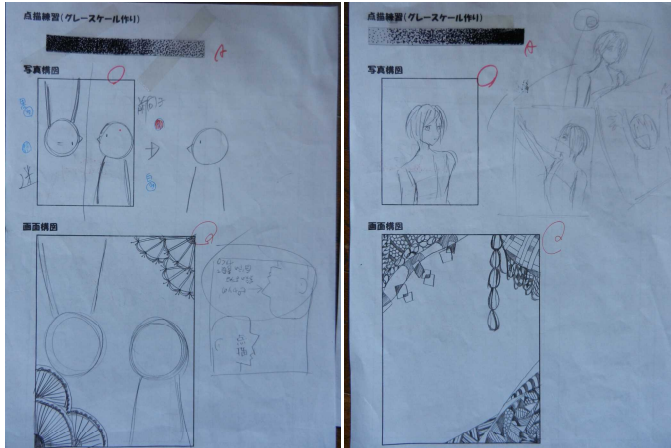



④学習カード資料1を使って、9時間計画で制作することを確認する。

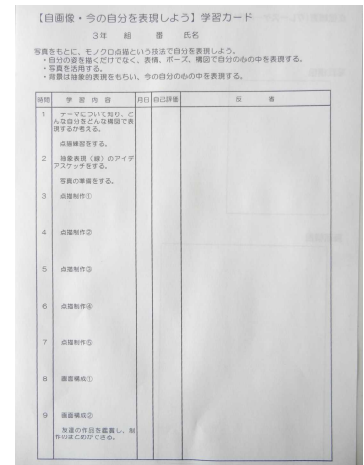
⑤構想を練る。

A 写真の構図を決める。

学習カードの「写真構図」の欄に画面構図のアイデアスケッチ資料2を描かせ、それを基に写真をお互いに撮らせる。）



資料2



資料1



資料3

B 写真を撮る。資料3

(学習カードで構図を確認しながらデジカメで写真を撮らせる。)

C 画面構成を考えながら、抽象的な表現の仕方も考える。資料2

第2次 点描、抽象表現の練習をする。

①小さな塩ビ板に点描の練習をする。資料2上(グレースケール)

②学習カードの画面構成資料2に、背景の抽象的表現のアイデアスケッチをする。

(抽象表現は2年生の抽象絵画の時のモダンテクニックの学習や作品の早く終わった生徒がゼンタングルを使ってしおりづくりをして体験している。体験したことを思い出させるためにも、学習カードには構成の決定ではなく、抽象表現の練習も兼ねて描かせる。)



第3次 自画像を描写する。

B4サイズにプリントした写真の上に塩ビ板をのせて0.1~0.5の油性ペンで点描の表現で自画像を描いていく。

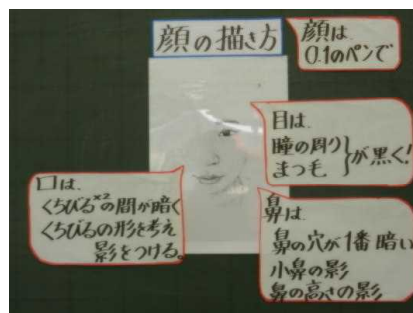


点の濃淡で立体感や質感を表現させる。

(表現する場所によってペンの太さを変えることや途中、写真と塩ビ板の間に白い紙を

入れて調子や全体の様子を確認しながら制作を進めさせる。)

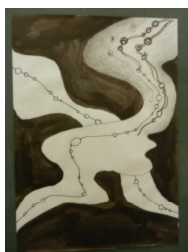
板書



(髪の毛の描き方、顔のパーツの描き方は、一斉指導でポイントを指導する。見本を作り、目で確認しながら制作が進められるようにする。)

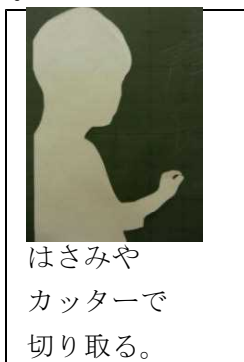
第4次 背景を描く。

①背景をどんな抽象的表現でどんな思いを表現するか考える。



(昨年度経験したさまざまな抽象表現を思い出し、自分の作品の意図にあった表現方法で表すことを伝える。)

②人物の白シルエットをつくり、描いた背景の上に白シルエット、塩ビ板と載せて作品を完成させる手順を知る。

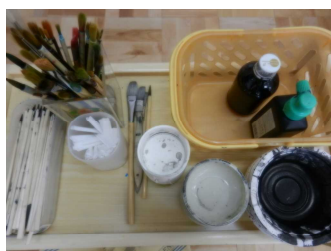


③好きな画材を使って表現する。

参考資料の本や画材は生徒の手に届く棚やワゴンに常にある。



資料の本



墨セット



パステル



ペン・色鉛筆

(生徒達が常に自由に使えるように、参考資料や画材は常に同じところに置き、自由に選択して活動できるようにしておく。その他に、自分の絵の具の道具もロッカーに入れ

ですぐに使えるようになっている。)

今まで経験してきた技法や画材を使って自由に表現する。



第5次 作品をまとめと鑑賞会をする。

①作品に題名をつける。



〔悩み〕



〔夢見る私〕



〔私は誰?〕



〔もう1人の私〕



〔明日へ〕



〔自信〕



〔光を目指して〕



〔闇から…〕



②鑑賞会をする。

作品を黒板に掲示して、鑑賞会を開く。

文化祭には、全員の作品を掲示する。

### Ⅲ 研究の成果と課題

#### 【成果】

平成27年7月17日 3年4組 39名調査

- |   |                       |  |
|---|-----------------------|--|
| 1 | 点描での自画像の制作は楽しかったか?    | はい 32人 ・ いいえ 7人  |
|   | 理由                    | はい：自分の顔に完成していくのがおもしろかった。<br>うまくできた。いつの間にか集中してた。<br>いいえ：細かい作業が嫌い。難しい。 |
| 2 | 背景の抽象的な表現の制作は楽しかったか?。 | はい 33人 ・ いいえ 6人  |
|   | 理由                    | はい：自分の考え方を好きに表現できた。<br>いろいろな画材を自由に使うのが楽しかった。<br>いいえ：難しかった。           |

4月の学年初めには、絵画を嫌いと答える生徒が多かったが、自画像の制作を終えてアンケートをとると、多くの生徒が今回の絵画を楽しかったと答えてくれた。自分の中ではこんな風に描きたいという思いはあっても、今までは技術的にうまく表現できないもどかしさがあり、表現す

ることを嫌っていた部分があったと思う。今回写真を使うことで技術的な負担を減らしたことで、絵画が苦手な生徒でもストレスを感じることなく絵画制作に打ち込むことができ、「自分を描く」「今の自分の気持ちを表現する」ことに集中し、自分自身を見つめ直すという行為にまでたどり着けた生徒も多かった。制作の感想に、「自分を見つめ直せた」という感想があったが、こつこつと数時間かけて自分を描き出すことは、自分というものを見つめ直すよい時間となったのであろう。また、背景の制作ではほぼ全員の生徒が思い思いの工夫をしながら作品づくりに夢中で励む姿から、素晴らしいものをつくらうとする気持ちを感じることができ、この美術を愛好する心や豊かな情操を育てるきっかけとなったのではないかと感じた。

#### 【課題】

人物を黒ペンだけで表現するので、背景もモノクロ中心で仕上げようと生徒達に表現の仕方に注文をつけたが、生徒達は制作する中で色を少しずつ入れ始めていた。美術の共通事項の中で色や形が重視されるように、表現する上で色での表現感情は大切である。モノクロ表現と決めつけるのではなく、もっと表現の仕方を自由にすべきであった。

写真を使っただけの表現なので、個性を出すためにもっとポーズや服装などに個性が出せると良かった。吹奏楽部の何人かの生徒は、自分の楽器を持っての画面構成にしたりしたが、ユニフォーム姿などがいなかったのは、導入部分での説明、工夫が足りなかったのだと思う。もっと初めから意欲をもって取り組めるような工夫が必要であった。

制作に必要な写真は本人の構図アイデアスケッチを確認しながら友達同士または教師が撮影しその後教師がまとめてプリントアウトするような流れにしたが、技術科との連携して生徒自身がプリントアウトして準備できるようになると良かった。

今回の自画像では、人物表現をモノクロ点描で描こうと技法を決めてしまった。1クラス39名が、それぞれ違う表現の仕方では指導ができないのではないかと考えての計画であったが、背景の制作の様子を見ると、生徒達は今まで体験した技法を使って自由に表現をしていた。そのことを考えると人物表現も一つの表現の仕方に限定せず、自分らしさをだす表現方法を選択させれば、さらに個性的で満足できる自信作の制作ができたであろう。今後、さらに工夫していきたい。

#### 《参考資料・文献》

中学校学習指導要領解説 美術編 文部科学省

中学校美術 2・3下 指導書 光村図書

ゼンタングル練習帳 ペニー・レイラ ララ・ウィリアムス ノーマ・バーネル マーガレット・ブルムナー 著 (株) ボーンデジタル

はじめてのゼンタングル さとういづみ著 (株) 自由国民社

ゼンタングル スザンヌ・マクニール サンディ・スティーブン・パーソロムエー マリー・ブラウニング 著 (株) プティック

more ゼンタングル スザンヌ・マクニール著 (株) プティック

タングルドローイングのアイデア500 ベッカー・クラフラ著 (株) グラフィック

